

ごあいさつ

平川市の誕生は、平成の大合併も一巡した頃、青森県南津軽郡の平賀町・尾上町・碓ヶ関村の3町村が合併し、平成18年1月1日に県内で第10番目の市として産声をあげました。合併に伴い、市の区域は、総面積345.81Km²と拡大し、各町村が保有してきた自然や歴史をはじめ、悠久より育んできた伝統・文化も市民が共有する財産として引き継がれました。

「平川」がつなぐ平川市となった今、3町村の融和・一体化に努めることが重要課題であり、「中央から地方へ」「官から民へ」の構造改革の流れの中で、自らの意思と行動力で地域の自立を実現することが求められています。『人、地域、産業がきらめくまち』を基本理念とし、多くの資源とともに住民一人ひとりの英知を生かし住民本位の行政運営、自立した地域づくりを目指しています。

平川市は、今、平川市らしいまちづくりの第1歩を踏み出したばかりです。この要覧により、当市への現状をご理解いただくとともに、皆様方からの温かいご支援、ご協力を賜れば幸いに存じます。



平川市長
外 川 三千雄



市のプロフィール

沿革

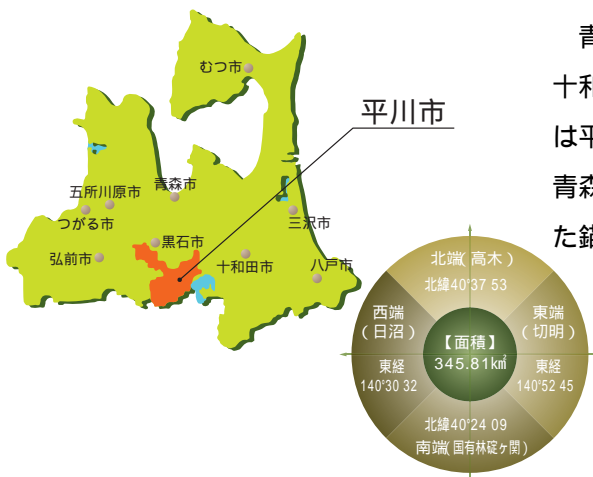
HISTORY

旧石器時代・縄文時代から近世にわたる遺跡が各所にあり、いたるところで先人の足跡がうかがわれます。発掘調査の結果、この地域における稲作文化はおよそ2000年前より今日に伝えられており、古来より肥沃な穀倉地帯として栄え、発展してきた経緯があります。

現在の平川市は、鎌倉時代に区分された「平賀郡（ひらかごおり）」に属しており、津軽4代藩主信政公により、「郡（ごおり）」を「庄（しょう）」と替え「平賀庄」「田舎庄」「鼻和庄」の3庄をもって「津軽郡」となり、「平賀庄」として明治新政に至るまで続きました。

明治時代の町村制施行以降「大光寺町」「柏木町」「竹館村」「町居村」「尾崎村」の2町3村が合併し、昭和30年3月1日に「平賀町」が誕生、「尾上町」「猿賀村」の合併により昭和30年1月1日に「新尾上町」が誕生しました。「碓ヶ関村」は、明治22年4月1日の町村制施行により「碓ヶ関村」「古懸村」「久吉村」が合併した時から誕生し、100年を越す伝統的な村でした。

度重なる町村合併を繰り返し、平成18年1月1日に「平賀町」「尾上町」「碓ヶ関村」の2町1村が県内で有数の大きな面積と人口数を誇る「平川市」として誕生しました。



位置

LOCATION

青森県南部、津軽平野の南端に位置し、東は十和田湖を境にして十和田市、秋田県小坂町、西は平川を隔てて弘前市、大鰐町と接し、北は、青森市、黒石市、田舎館村、南は秋田県に接した鉤型をなしています。その総面積は345.81km²を有しています。

広ぼう(広がり)
東西 / 31.3km 南北 / 25.4km

市役所本庁舎位置
東経 / 140° 33 59 北緯 / 40° 35 03 海拔 / 43m
数値は、世界測地系による(国土地理院)

交通アクセス

平川市役所(本庁舎)へ

飛行機 / 「青森空港」より車で40分

バス / JR「弘前駅」より弘南バスで約30分

電車 / JR「弘前駅」より、弘南鉄道弘

自動車 / 東北自動車道「大鰐弘前IC」より10分

南線で15分、「平賀駅」下車

地勢

TOPOGRAPHY

当市の地勢は、平地、台地、山地の3種類に大別されます。津軽平野の一部で市街地が形成されており、水田地帯として利用されている平地は、肥沃な沖積土で岩木川水系の平川とその支流である浅瀬石川の2つの川の恵みを受けています。緩やかな傾斜地から台地では主にりんご栽培が盛んに行なわれています。また、市の総面積において約7割を占める山林は、そのほとんどが国有林となっており、櫛ヶ峰(標高1,516m)を中心とした南八甲田連邦の山地には、湿原地もあり、その美しい自然環境は十和田八幡平国立公園に指定されています。山間部には川が多く、上流には溪流や数々の滝がみられます。

合併までのみちのり



第1回合併協議会開催

できごと

TOPIX

知事から
廃置分合の
決定が
通知される。



- H16年
- 10月29日 「平賀・尾上・碓ヶ関合併協議会（法定の合併協議会）を設立
 - 11月13日 第1回合併協議会開催（事務所の位置を「現平賀町役場」に決定）
 - 11月22日 第2回合併協議会開催（合併方式を「新設合併」、「市制施行」に決定）
 - 12月 4日 第3回合併協議会開催
 - 12月18日 第4回合併協議会開催（合併期日を「平成18年1月1日」に決定
 - 12月27日 県より合併重点支援地域に指定（平賀町、尾上町及び碓ヶ関村の区域）される
 - 12月27日 第5回合併協議会開催

H17年

- 1月14日 第6回合併協議会開催（新市の名称を「平川市」に決定）
- 1月28日 第7回合併協議会開催
- 2月 8日 第8回合併協議会開催
- 2月26日 第9回合併協議会開催
- 3月 5日 合併協定調印式開催
- 3月17日 尾上町、平賀町、碓ヶ関村各町村議会において「平川市」新設合併議案提案可決
- 3月24日 廃置分合申請書を県へ提出
- 4月27日 第10回合併協議会開催
- 6月29日 第11回合併協議会開催
- 6月30日 県議会第242回定例会において、市町村の廃置分合議案可決
知事から廃置分合の決定が通知される
- 7月21日 総務大臣告示
- 9月30日 第12回合併協議会開催
- 11月 4日 第13回合併協議会開催
- 12月 2日 第14回合併協議会開催

平賀町閉町式



尾上町閉町式



碓ヶ関村閉村式



H18年

- 1月 1日 合併 平川市制施行

平成18年1月1日日本庁舎前にて開庁式
テープカット

旧3町村のあゆみ

平賀町

HIRAKA



〔昭和39年6月制定〕

横一文字の配列は津軽平野をあらわし、円は町内の融和を、更に両端の突出は町の発展を象徴し、新興「ヒラカ」町の躍進を期待したものです。

旧石器時代から近世にかけての遺跡が、東部山間と平野の漸移地帯に多く分布していることが判明しており、西に津軽平野を控えたこの地は、古来より人間生活の場として最適な条件を満たしていたことが理解されます。

鎌倉時代に入ってから、幕府の御家人である曾我氏が津軽に派遣され、先に岩館（楯）に居城して「平賀郡」と呼ばれたこの地一帯を統治し、後には大光寺にも進出し山手一帯を支配下に組み込んでいきました。

その後、南部氏の支配を経て天正年間には、津軽為信によって平賀郡一帯が平定（乱をしずめる）され、その支配下に置かれています。藩政時代には、平賀郡は「平賀の庄」と改められ、弘前藩に属し、尾崎組、大光寺組、大鱈組にそれぞれ編入されました。

町の起り

鎌倉時代に、この土地は、平賀郡となり、その後平賀の庄となっていますが、地名の語源は、判然としていません。昭和2年弘南鉄道株式会社が創設され、現在の本町に本社並びに駅を設け「平賀」と命名し、平賀町物産の発送駅として全国にその名を知られていました。その後、黒石警察署平賀派出所（現在平賀交番）や青森銀行平賀支店等各官公庁、団体はすべて平賀の名称を冠し、合併に際して平賀の町名を用いることに一人の依存がなかったといわれています。

町村制施行から現在まで

明治22年4月1日

- ・大光寺、本町、小和森、館田、苗生松、松崎、館山、松館、杉館、荒田の10ヶ村をもって、大光寺村を設置。
- ・柏木町、石郷、原田、岩館、石畑、小杉、大坊、四ツ屋、吹上、高畑の10ヶ村をもって柏木町村を設置。
- ・唐竹、沖館、広船、新館、小国、葛川、切明の7ヶ村をもって竹館村を設置。
- ・尾崎、新屋、町居、平田森の4ヶ村をもって尾崎村を設置。

明治28年1月22日 尾崎村大字町居が、竹館村に編入変更後、明治34年7月21日に竹館村から分離独立して、町居村が設置。

昭和4年7月1日 柏木町村、昭和18年4月1日大光寺村が町制施行し、2町3村が誕生しました。

昭和30年3月1日 大光寺町、柏木町、竹館村、尾崎村、町居村の2町3ヶ村を廃止して全区域をもって平賀町を設置し、その後、平成18年1月1日に合併するまでの51年間10ヶ月の長きにわたり津軽において、最も気候・風土に恵まれた穀倉地帯といわれ、農耕発祥の歴史と伝統を守り続けてきました。

尾上町

ONOE



〔昭和35年3月制定〕

図案は、町名の「尾」の字を猿賀神社の鷲にあしらひ、「上」の字を丸くして名産のリンゴを象徴、尾の字をかこんで団結と飛躍的發展をあらわしたものです。

古い記録によると、金田村の区域は、津軽郡平賀の庄大光寺組に属し、猿賀村及び尾上村の区域は平賀の庄猿賀組にそれぞれ属していました。

明治6年行政区が改定され、県下第2大区第7小区（旧金田村は第8小区）の区域に入りました。同16年尾上、高木、久米、追子野木と浅瀬石村大字中川（現在の黒石市）が連合して18組となり、南田中、金屋、李平、新屋町、中佐渡、長田と旧平賀町大字平田森、荒田の8ヶ村が連合して21組となり、原、猿賀、八幡崎、西野曾江、新山、蒲田、日沼、大袋が連合して17組にそれぞれ分けられました。明治22年初め町村制に改められ、尾上村、高木村、追子野木村の3ヶ村をもって尾上村に、南田中村、金屋村、李平村、新屋町村の4ヶ村をもって金田村に、原村、猿賀村、中佐渡村、長田村、八幡崎村、西野曾江村、新山村、蒲田村、日沼村、大袋村の10ヶ村をもって猿賀村となりました。

町の起り

「尾上」は江戸時代、近江の商人によって猿賀村の新田として開拓されました。猿賀住人の氏田弥左衛門と作兵衛（のちの清藤半十郎）の2人が、猿賀村領の東端に、「自費を投じて派（新村）を取り立て、3ヵ年の作取ならびに諸役を免ぜられ、のち両人の努力により家数も次第に増え、貞享年間には94軒を数えた」と言われています。初めは猿賀新田村などと称されました。

が、津軽藩3代藩主信義によって、天保元年（1644年）に尾上村と改められ独立した一村になったと伝えられています。

「尾上」の語源については、謡曲「高砂」に謡われた相生霊松「尾上の松」の故事にちなんだ好字嘉名（縁起の良い名前）であり、当時この地に雌雄一根から生じた巨大な双幹の松（相生の松）があったといわれます。「高砂」にある尾上神社（現在の兵庫県加古川市）の境内には、相生霊松「尾上の松」があり、尾上の松は、古来から様々な歌に詠まれてきており、「相生の松」は永遠・長寿・夫婦和合を象徴することから、引用して「尾上」と命名されたものであると伝えられています。

町村制施行から現在まで

明治22年4月1日 町村制に伴い、尾上村、金田村、猿賀村に3ヶ村に統合されました。

昭和12年4月1日 尾上村と金田村が合併により町制を施行し、尾上町が誕生しました。

昭和30年1月1日 尾上町と猿賀村が合併し、新しく「尾上町」が発足しました。

昭和31年8月10日 大字大袋が分町し田舎館村に、同年10月1日大字追子野木・久米が分町して黒石市にそれぞれ編入されました。

昭和34年6月10日 田舎館村大字大袋字塚越の一部が境界変更によって尾上町大字日沼に編入されました。南田中では、イグサを水田に栽培し、ゴザ・ホウキなどで有名となり、以降苗木など各種物品の行商に力を入れてきました。金屋の傾斜地一帯ではりんご栽培により経済力が上がり、農家は富の象徴として、競って蔵を建てました。平成18年1月1日に合併して平川市となるまでの46年と7ヶ月の長きにわたり、豊かで魅力のある、歴史と農村景観を重視したまちづくりを大切にしてきました。

碓ヶ関村

IKARIGASEKI



〔昭和42年5月制定〕

三つの輪は、知（ち）情（じょう）意（い）の三つの演奏を現し、知は教養を高め、情は愛情互助の精神を意味し、意は積極的に行動し、勇気をもってこれに当たるという人間づくりの三要素を象徴しています。また、碓ヶ関村は三集落から構成されているところから、三つの輪は、集落が互いに和合し、相協力して碓ヶ関村が総合的な発展をすることを記念したものです。

初代津軽藩主津軽為信公は、秋田比内の浅利城主を襲うために、険阻な矢立峠を切り開いて、秋田へ通じる道筋をつけて関所を設け、碓ヶ関の由来とともに奥州街道の布石となりました。江戸幕府は、参勤交代の公道に決めて、碓ヶ関に関所を移転し、番所・町奉行を置き、御飯屋を新築するなど、多くの役人を配置し、取り締まりあたらせ、町割を行なった以来、関所のある宿場町、交通の要衝として繁栄しました。明治政府は、碓ヶ関関所を廃止し、同年6年(1873年)3月青森県下10大区、72小区に分割しました。碓ヶ関は、第2大区（現在の黒石市）11小区（当時は宿川原村）、古懸村、碓ヶ関村、久吉村、大鰐村、蔵館村、苫木村、長峰村、杉浦村、唐牛村、虹貝村、早瀬野村、島田村及び駒木村の14村に属していました。岩木川一支流平川に沿った山間の地にあることから、近代まで、水害と戦うあゆみでもありました。

村の起り

「敏達天王の代に、津軽に『白鬚水』という山津波が起き、この時、船で往来し船を繋いだ地を碓沢と呼び、村が出来て碓ヶ岡と呼んだ。その後初代津軽藩主津軽為信が関所を設けた時に、碓ヶ関と改められた。」（古懸の国上寺境内にある不浪寄八幡宮の縁起による）

碓ヶ関村発祥の地は、古懸地区の台地の縁に沿った永野、大面、古館の地区であり、5～6千年前の集落の遺跡や平川から運んだと思われる石も出土しています。碓ヶ関に遠見番所が作られた時には、この古館から通っていたという文書があります。

河岸段丘にある集落という意味の「イカリ」がいつしか「碓」という漢字があてられ、船の碓と関係付けられてしまったと考えられた説や、昔から洪水に悩まされてきた土地柄、水が起る土地ということから「いかりの里」といわれたなどの説もあり、伝説として歴史の謎を秘めています。

町村制施行から現在まで

明治22年4月1日 碓ヶ関、古懸、久吉の3大字を統合して碓ヶ関村が誕生。

明治28年 弘前～碓ヶ関間の国営鉄道（現在のJR）が開通し、碓ヶ関駅が設置。

昭和61年 青森～浦和間の東北縦貫自動車道が全線開通し、碓ヶ関ICが設置。

平成元年4月には、町村制施行100周年を迎えた伝統ある村であり、平成18年1月1日に合併する現在に至るまで、交通の要衝の地であり、津軽観光の玄関となっています。

関所の設置について……関所の起源については、大化2年（646年）に朝廷が畿内の防衛のために作ったものですが、延暦8年（789年）に国内が安定すると、廃止されました。平安時代中頃になると、港や河川を通る品物から勘過（よく調べて通すこと）料を取ることを目的に再開されました。簡便に金銭が徴収出来ることから、港、河川、道路などの要衝に関所が設けられました。碓ヶ関の関所は、津軽為信によって作られたといわれていますが、それ以前に土地の豪族が十三湊から遊航し、平川の終点が碓ヶ関でした。

特集「平川市誕生とともに」

平川市誕生の合併元年（H18.1.1～H18.12.31）には、234人のあちゃんが誕生しました。おめでとうございます！

この子ども達と一緒に平川市も成長を続け、大きくなった頃には、生まれてよかった。住んでいて良かった。と思えるような“まち”をみんなで作っていきましょう。

写真を掲載した方は、平成19年6月広報にて募集したところ、応募していただいた方です。

地区
生年月日
撮影時期
コメント



かとう あきこ
加藤 瑛子
ちゃん

誕ケ関
H18年1月3日
H19年7月
パワフルな3女です。



こもり みつき
小森 光稀
ちゃん

李平
H18年6月13日
H19年6月
お兄ちゃんといつまでも仲良くね！



さいとう しょうや
齊藤 翔哉
ちゃん

猿賀
H18年4月17日
H19年4月
ピリーズブートキャンプが大好き！とても元気で活発なかわいい息子です。



たてした ひなの
館下 陽奈乃
ちゃん

松崎
H18年2月13日
H19年3月
ダンスが大好きなひなのちゃん、明るく元気な女の子になってね！



きむら こう
木村 昊
ちゃん

高畑
H18年8月24日
H19年4月
お父さんのように、大きくなると美味しい子になってね！

いきいき農業のまち

基幹産業が農業であるわがまちの主要な農産物は、りんごと米です。山間部においては高原野菜、津軽愛情牛の生産にも力を入れています。地産地消や特産品のブランド化を推進するとともに、消費者が望む「安全・安心」で「売れる」農産物づくりを目指しています。

Agriculture



都市と農村の文化、交流を図るため、修学旅行生などを受け入れし、グリーンツーリズムに取り組んでいます。

Green Tourism



Highland Vegetables



冷涼な気候と、広大な土地を生かし、品質の高い高原野菜を生産しています。

Dairy Farming



緑に囲まれ、自然豊かな大地の中で、安全安心を育てています。